

決算概況

当期純利益



当期純利益は、経常利益に特別損益や法人税等および法人税等調整額を加減した最終の利益です。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対策費用や構造改革に伴う費用の発生により経費の増加がありました。有価証券売却益を計上したことなどにより黒字転換し、1億6千5百万円を計上することができました。

コア業務純益



コア業務純益は、本業での収益力を表す指標です。令和2年度は、構造改革を進めるための費用として退職一時金を計上したことなどから、△1千3百万円となりました。

預金残高



預金残高は、新型コロナウイルス感染症の影響で消費を控えた人々の預金増加に加えて、政府から支給された特別定額給付金の歩留まりなどもあり、大きく増加しました。

令和2年度は前期より102億6千8百万円増加し、2,294億4百万円となりました。

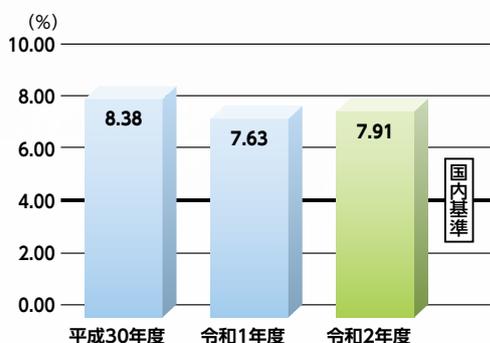
貸出金残高



貸出金残高は、新型コロナウイルス感染症への対策として緊急経済対策資金融資の利用が拡大するなどして、大きく増加しました。

令和2年度は前期より39億8千万円増加し、872億2千9百万円となりました。

自己資本比率

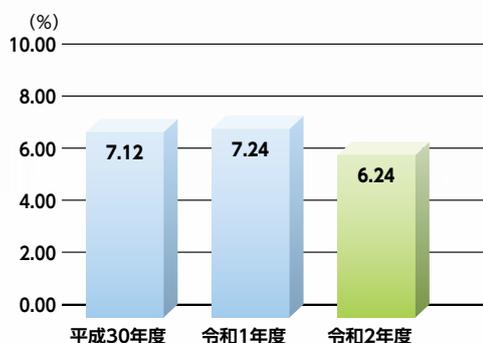


自己資本比率は金融機関の健全性を表す指標で、損失が発生する可能性のある資産に対する自己資本の割合のことです。国内のみで営業する金融機関の場合、4%以上の比率を維持することが法律で定められています。

令和2年度の自己資本比率は利益計上に加えて、信用リスク・アセットの減少もあったことから、7.91%に上昇いたしました。

国内基準を大きく超える水準であり、依然として高い健全性を確保しております。

不良債権比率



令和2年度の金融再生法に基づく開示債権の不良債権比率は6.24%で、前期より1.00ポイント低下しました。なお、不良債権のうち86.20%は担保・保証や貸倒引当金等によって保全されております。

また、不良債権額から保全額を差し引いた実質的な不良債権は貸出債権全体の0.86%であり、十分な保全がなされております。

はじめに

地域を応援する
取り組み

コンプライアンス等
への取り組み

各種サービス
のご案内

ガバナンスの
充実状況

資料編